



第36回日本神経理学療法学会
サテライトカンファレンス in KOBE

神経理学療法のエビデンス創出と臨床応用 — 私の臨床を変えるために —

抄録・プログラム集



- | | |
|-----|-------------------|
| 会 期 | 2026年 2月 7日 (土) |
| 会 場 | 兵庫医科大学 神戸キャンパス |
| 主 催 | 一般社団法人 日本神経理学療法学会 |
| 集会長 | 野添 匡史 (兵庫医科大学) |



開催趣旨

神経理学療法のエビデンス創出と臨床応用

— 私の臨床を変えるために —

集会長 野添 匡史

兵庫医科大学

現在、「エビデンス」という言葉は広く浸透しているものの、臨床現場での応用は依然として十分とはいえない。脳卒中リハビリテーションの分野においても、ガイドラインの実践を妨げる要因として、時間的制約や情報へのアクセス困難といった環境的な課題に加え、リハビリテーション専門職者自身の“知識”や“技能”といった人的要因が大きく関与していることが報告されている(Cormican A, et al. 2023)。国民の健康増進に真に寄与する神経理学療法を展開していくには、エビデンスの臨床応用を推進するとともに、臨床家自身が臨床研究に主体的に関与し、研究を推進していく体制づくりが不可欠である。

我が国において、このようなエビデンス実践を強力に促進する手段の一つが診療報酬への収載である。近年の診療報酬改定ではエビデンス重視の傾向が一層強まり、とりわけ臨床疫学的な裏付けが乏しい領域は、報酬の対象から外される動きすら見られ始めている。社会保障費のさらなる抑制が求められる中、臨床家が日々の診療から得られるデータを活用し、エビデンスの創出に貢献することは、もはや自身の職域や身分の保障に直結する時代になったといえる。

一方で、「目の前の対象者に適用できるエビデンスがない」「理学療法効果をうまく示せない」といった現場の課題に直面している臨床家も少なくない。こうした課題に対し、臨床家自身がエビデンス創出に関わることは、現場の問題解決に直結するのみならず、神経理学療法効果を客観的に評価し、自らの臨床実践をより一層洗練させることにもつながる。

本カンファレンスでは、「神経理学療法のエビデンス創出と臨床応用 — 私の臨床を変えるために —」をテーマに掲げ、エビデンス創出の具体的手法とその臨床応用について、臨床家にとっても明確な理解が得られる内容を提供する。また、ハンズオンセミナーでは R を用いた DPC データ解析の実践を通じて、データハンドリングの具体的スキルを学ぶ機会を設ける。さらに、エビデンス創出に豊富な実績を持つ日本予防理学療法学会および日本循環器理学療法学会との共催講演を通じて、学際的かつ発展的な議論の場となることを期待している。

ご参加される皆様へ

1. 開催概要

- 会期：2026 年 2月 7日（土）
- 会場：兵庫医科大学 神戸キャンパス
 - ▶ サテライトカンファレンス：P 棟北館オクタホール
 - ▶ ハンズオンセミナー：M 棟2階 M204 教室
- 開催方法：対面＋オンデマンド配信（※ ライブ配信はございません）

2. 参加登録について

※ 当日の参加登録はございません。事前参加登録をお願いいたします。

参加登録期限：

- 対面（＋オンデマンド）：2月5日（木）
- ハンズオン：1月30日（金）※募集終了
- オンデマンド：2月12日（木）

1) 参加登録費

参加者種別	参加費
日本神経理学療法学会の専門会員A・B、一般会員	¥3,000
上記以外の日本理学療法士協会会員（非学会員）	¥3,000
非協会員	¥5,500
他職種	¥3,300
学生（非会員）	¥550
ハンズオンセミナー（専門会員 A・B）	¥3,000（募集終了）
ハンズオンセミナー（一般会員）	¥3,000（募集終了）

[参加者種別について]

1. 専門会員 A・B、一般会員：日本神経理学療法学会の会員 A・会員 B、一般会員
2. 非学会員：日本理学療法士協会会員で本学会非会員
3. 非協会員：理学療法士で日本理学療法士協会の非会員
4. 他職種：理学療法士以外の医療従事者

2) 参加登録方法

◆ 日本理学療法士協会会員の方

- ① 日本理学療法士協会の[マイページ](https://mypage.japanpt.or.jp/mypage/login)にアクセスしてください(ログインには会員番号とパスワードが必要です)

▶ <https://mypage.japanpt.or.jp/mypage/login>



(協会マイページへ)

- ② 「生涯学習管理」 > 「各種検索・申込」 > 「セミナー検索・申込」 を選択します。
- ③ 「セミナー検索画面」の中の「セミナー番号」を、ご希望される参加形態に合わせて下記いずれかの番号を入力してください。

○セミナー番号;

- ・ 対面参加(+オンデマンド): 154646
- ・ オンデマンド参加: 154647
- ・ ~~ハンズオン参加: 147973~~ ※募集終了

- ④ ページ最下部の「この条件で検索する」を実行してください。
- ⑤ 詳細ボタンを実行し、申込手続きを行ってください。

◆ 日本理学療法士協会会員外の方(学生含む)

- ① 会員外の方は、[Payvent](https://app.payvent.net/embedded/forms/show/6912a9f09161bc2688903d99)より参加登録・お支払いをお願いいたします。

▶ <https://app.payvent.net/embedded/forms/show/6912a9f09161bc2688903d99>



(Payvent 参加登録・お支払いへ)

- ② 参加者情報として各項目のご入力をお願いいたします。
- ③ 利用規約とプライバシーポリシーをご確認いただき、チェック欄に✓を入れ、確認画面へお進みください。

3) 参加登録費の領収書について

- ・協会会員: 協会マイページからダウンロードしてください。
- ・協会非会員: 参加登録時の Payvent からダウンロードしてください。

4) 参加登録にあたっての諸注意

- 事前参加登録のみです。※当日参加登録はございません
- オンデマンドのみ参加希望の方も事前登録が必要です。※ライブ配信はございません
- カンファレンス対面参加とハンズオンセミナーの両方の申し込みはできません
- ハンズオンセミナーの定員は25名です ※募集終了
- ハンズオンセミナー参加者もオンデマンド視聴(”活動報告” ”総合討論”は除く)は可能です。
※ ただし、講義ポイントは付与されません

3. 受付(対面参加)

- 受付時間: 8:30～9:00
- 受付場所: P 棟北館1階エントランスホール

[日本神経理学療法学会会員の方]

- 当日は「日本理学療法士協会メンバーアプリ(以下、JPTA アプリ)」を用いて、QRコードによる受付を行います。
- 事前に JPTA アプリのダウンロードをお願い致します。
日本理学療法士協会 メンバーアプリ(無料)
▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/announcement/newssystem/>

[本学会非会員の方(※日本理学療法士協会の会員)]

- 当日は「日本理学療法士協会メンバーアプリ(以下、JPTA アプリ)」を用いて、QRコードによる受付を行います。
- 事前に JPTA アプリのダウンロードをお願い致します。
日本理学療法士協会 メンバーアプリ(無料)
▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/announcement/newssystem/>

[非協会員・他職種・学生の方(Payvent から申し込まれた方)]

- 参加登録用紙への必要事項の記入をお願いいたします。

4. 新生涯学習制度におけるポイント・点数取得について

		ポイント 点数	カリキュラム区分・コード
サテライトカンファレンス 参加者	登録理学療法士 更新	5 ポイント	45・エビデンス(根拠)に 基づく理学療法
	認定/専門理学療法士 更新	5 点	
ハンズオンセミナー 参加者	登録理学療法士 更新	3.5 ポイント	45・エビデンス(根拠)に 基づく理学療法
	認定/専門理学療法士 更新	3.5 点	

5. 飲食について

- 会場内は飲食禁止となっております。ただし、**研究推進委員会活動報告の時間帯 12:10～12:30 においては、第 2 会場(M 棟 M204)での飲食が可能です。**
- 飲食される場合、**①P 棟南館 1・2 階レストラン、②M 棟 2 階ラウンジスペース**をご利用ください。
- 学内のコンビニエンスストア、レストランは当日休業となっておりますので、予め各自で昼食をご用意ください。

6. 質疑応答について(対面参加)

- 質問の採否は司会や座長に一任となります。また、進行状況によって質疑応答時間を確保できない場合がございます。予めご了承ください。
- ご質問、ご発言される方は、あらかじめマイクスタンドの前で待機の上、司会・座長の指示に従い、所属・氏名を述べてからご発言ください。

7. ハンズオンセミナーについて

1) セミナー会場(対面参加): M 棟2階 M204 教室

2) ハンズオンセミナー参加者用のページについて

- 事前準備等に必要なサイト情報を掲載しております;
ホームページ(<https://36thjsnptsc.wixsite.com/kobe>) > ハンズオン参加者用
- 事前資料・講義資料は、全受講者が閲覧できるよう公開します。

3) ハンズオン現地参加される皆様へ

- ハンズオン参加者の皆様には事前に R および R-studio のセットアップやセミナー資料などのご案内をメールにてご連絡させていただいております。
- 本カンファレンスのホームページ「ハンズオンセミナー参加者用」のページ(※要パスワード)に、「R インストールガイド」を設置しておりますので、各自ご確認の上、セットアップ等のご準備をよろしくお願いいたします。
- 当日は WiFi 接続が可能な PC のご用意をお願いいたします。(WiFi ルーターは運営側でご用意いたします)

8. その他

- 紙媒体での抄録集の配布はございません。(ホームページにて Web 公開のみ)
- 会場内にクロークはございません。
- **学内のコンビニエンスストア、レストランは当日休業となっておりますので、予め各自で昼食をご用意ください。**
- 会場内では、携帯電話やスマートフォンの電源を切るか、マナーモードへの設定をお願いいたします。
- 本会内容のカメラ・ビデオ撮影、録音などは講演者や発表者の著作権保護や対象者プライバシー保護のため固くお断りいたします。

9. オンデマンド配信について

1) 配信期間:

2月7日(土) 9:00 ~ 2月14日(土)16:10

※ 現地での各講演が終了した後、順次公開いたします。

2) 利用方法:

- 本カンファレンスのホームページより、「オンデマンド配信」のページからご利用ください。
- 動画の視聴には、必要なパスワードを入力してください。

3) 以下の注意事項を遵守いただきご利用ください。

- オンデマンド動画の視聴に必要なパスワードを事前にお送りしております。他者への共有等の行為はお控えください。
- **無断での録画・録音・撮影の禁止:** 講演内容(スライド、映像、音声など)の無断での録画、録音、写真撮影(スクリーンショット等を含む)は、著作権侵害にあたるため固く禁止いたします。
- **資料の二次利用・共有の禁止:** 配布された資料や講演画面の無断転載、複製、SNS 等での共有、他のサイトへのアップロードは禁止いたします。
- **視聴用 URL の共有禁止:** 視聴用の URL やパスワードは申込者本人のみが利用可能であり、他人への共有・譲渡はしないでください。
- オンラインでの聴講は、参加者ご自身のインターネット環境に依存します。通信状況によっては、映像や音声の途切れ、接続不良が発生する可能性があります。また、インターネット回線の通信費用は、利用者ご自身の負担となりますので、予めご了承ください。

10. お問い合わせ先

本カンファレンスに関する問い合わせは、下記連絡先へお願いいたします。

【運営事務局】

〒650-0045 兵庫県神戸市中央区港島1丁目3-6 兵庫医科大学
荻野 智之(兵庫医科大学) E-mail: 36th.jsnptsc@gmail.com

会場案内

1. 会場

兵庫医科大学 神戸キャンパス

〒650-8530 兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番地6

※ キャンパス内の駐車場は利用できません。
公共交通機関のご利用をお願いいたします。



アクセス詳細はこちら: <https://www.hyo-med.ac.jp/about/access/guide/kobe/>

【電車(JR 三ノ宮・阪急 神戸三宮・阪神 神戸三宮)】

- ▶ ポートライナー「三宮」駅より「みなとじま(キャンパス前)」駅下車 徒歩約 10 分

【空港(神戸空港)】

- ▶ ポートライナー「神戸空港」駅より「みなとじま(キャンパス前)」駅下車 徒歩約 10 分

【バス(三宮駅)】

- ▶ 「ポークアイキャンパス線三宮バス停」から「ポークアイキャンパス行」乗車約 12 分、「ポークアイキャンパス東バス停」下車すぐ

【バス(神戸駅)】

- ▶ 「神戸駅南口」から「ポークアイキャンパス行」乗車約 15 分、「ポークアイキャンパス東バス停」下車すぐ



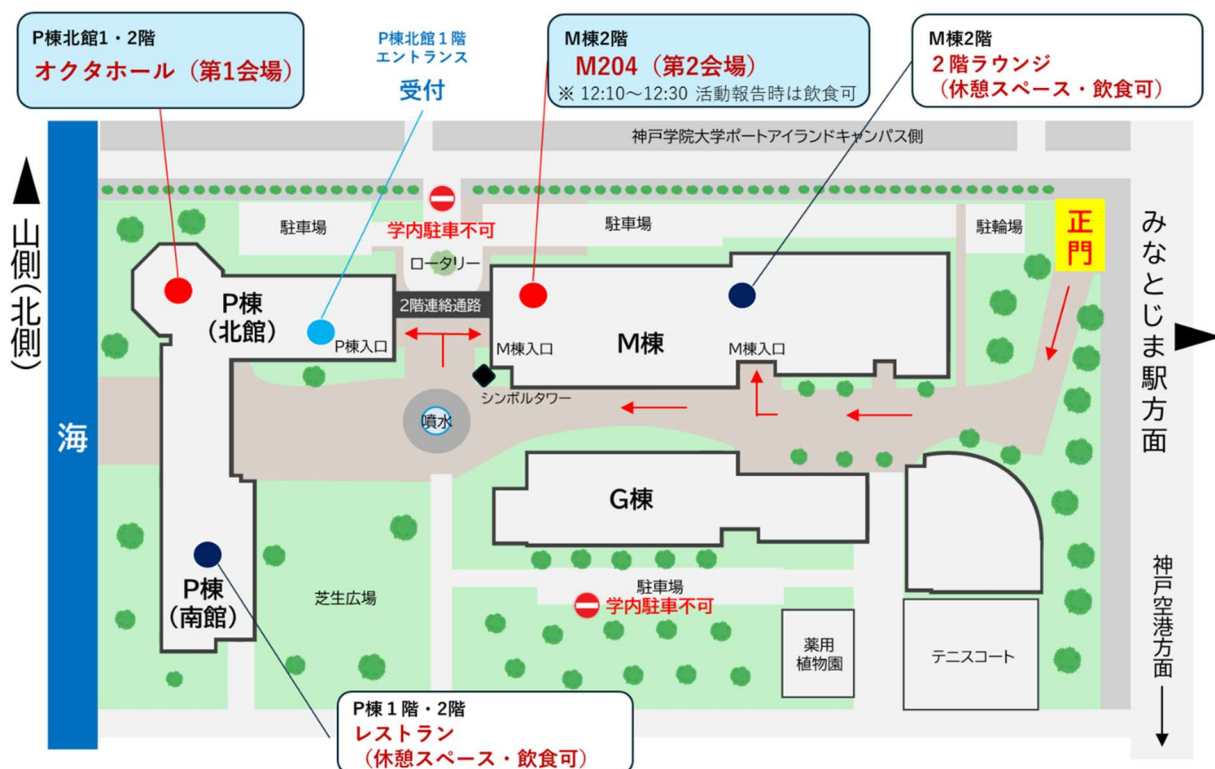
[バス停マップ]



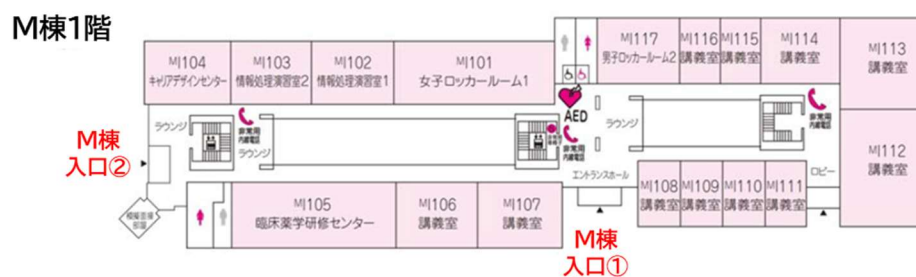
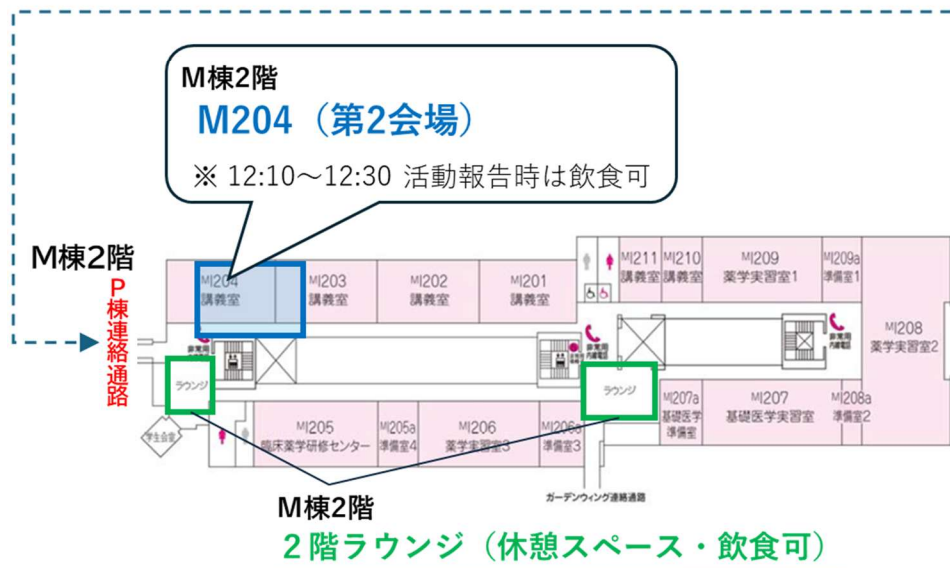
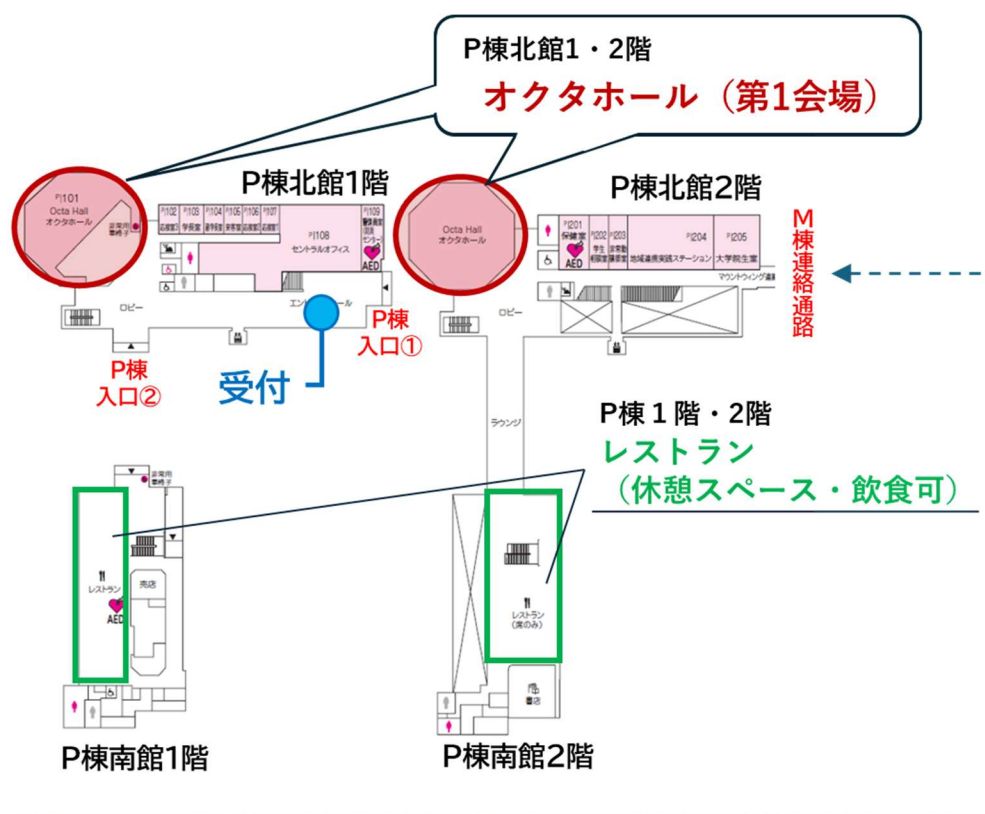
2. 会場案内図

- 正門よりキャンパス内にお入りください。
- **会場内駐車場はご利用できません。**
- 第1会場はP棟オクタホール(1・2階)、第2会場はM棟M204教室(2階)です。
- 会場出入口はマップをご確認ください。P棟とM棟は2階連絡通路から行き来可能です。

[案内図①]



[案内図②]



**第36回日本神経理学療法学会サテライトカンファレンスin KOBE
タイムスケジュール**

時 間		第1会場 P棟オクタホール	第2会場 M棟M204
8:10			
8:20			
8:30			
8:40	8:30～9:00		
8:50		開場・受付	
9:00			
9:10	9:00～9:05 オープニングリマーク	野添 匡史（兵庫医科大学）	
9:20	9:10～10:00 教育講演Ⅰ		
9:30	神経理学療法におけるDPCデータ研究の展開と臨床活用		
9:40	講師：池田 登顕（山形大学）		
9:50	座長：井手 一茂（千葉大学）		
10:00		休 憩	
10:10	10:10～11:00 共催講演Ⅰ		
10:20	（共催企画：日本予防理学療法学会）		
10:30	神経・予防理学療法におけるJAGES調査研究の展開と臨床活用		
10:40	講師：井手 一茂（千葉大学）		
10:50	講師：野口 泰司（浜松医科大学）		
	座長：中谷 知生（宝塚リハビリテーション病院）		
11:00		休 憩	
11:10	11:10～12:00 教育講演Ⅱ		
11:20	神経理学療法における予測モデル研究と臨床活用		
11:30	講師：海津 陽一（日高リハビリテーション病院）		
11:40	講師：田村 俊太郎（太田医療技術専門学校）		
11:50	座長：森岡 周（畿央大学）		
12:00	12：00～12：50		
12:10		昼休憩	
12:20			
12:30			
12:40			
12:50			
13:00	12:50～13:40 教育講演Ⅲ		
13:10	神経理学療法における尺度開発研究と臨床活用		
13:20	講師：宮田 一弘（茨城県立医療大学）		
13:30	講師：五十嵐 達也（文京学院大学）		
	座長：佐藤 剛介（奈良県総合医療センター）		
13:40		休 憩	
13:50	13:50～14:40 共催講演Ⅱ		
14:00	（共催企画：日本循環器理学療法学会）		
14:10	神経・循環器理学療法における多施設共同観察研究と臨床応用		
14:20	講師：山本 周平（信州大学医学部附属病院）		
14:30	講師：久保 宏紀（甲南女子大学）		
	座長：宮田 一弘（茨城県立医療大学）		
14:40		休 憩	
14:50	14:50～15:20 教育講演Ⅳ		
15:00	神経理学療法における無作為化比較試験と臨床応用		
15:10	講師：二階堂 泰隆（大阪医科大学薬科大学病院）		
	座長：野添 匡史（兵庫医科大学）		
15:20		休 憩	
15:30	15：30～16：00 総合討論		
15:40	神経理学療法における臨床研究の限界を超えるには		
15:50	ーエビデンス創出と臨床現場の溝をどう埋めるかー		
16:00	シンポジスト：池田 登顕, 井手 一茂, 海津 陽一, 久保 宏紀, 二階堂 泰隆		
	司会：宮田 一弘, 野添 匡史		
16:10	クロージング	準備委員長 荻野 智之（兵庫医科大学）	
16:20			
16:30			
16:40			

プログラム

○ オープニングリマーク 9:00～9:05 (第1会場 オクタホール)

集会長 野添 匡史 (兵庫医科大学)

○ 教育講演Ⅰ 9:10～10:00 (第1会場 オクタホール)

座長: 井手 一茂 (千葉大学)

「神経理学療法における DPC データ研究の展開と臨床活用」

講師: 池田 登顕 (山形大学)

○ 共催講演Ⅰ 10:10～11:00 (第1会場 オクタホール) [共催]日本予防理学療法学会

座長: 中谷 知生 (宝塚リハビリテーション病院)

「神経・予防理学療法における JAGES 調査研究の展開と臨床活用」

講師: 井手 一茂 (千葉大学)

講師: 野口 泰司 (浜松医科大学)

○ 教育講演Ⅱ 11:10～12:00 (第1会場 オクタホール)

座長: 森岡 周 (畿央大学)

「神経理学療法における予測モデル研究と臨床活用」

講師: 海津 陽一 (日高リハビリテーション病院)

講師: 田村 俊太郎 (太田医療技術専門学校)

○ 研究推進委員会活動報告 12:10～12:30 (第2会場 M204)

演者: 荻野 智之 (兵庫医科大学)

司会: 野添 匡史 (兵庫医科大学)

○ 教育講演Ⅲ 12:50～13:40 (第1会場 オクタホール)

座長: 佐藤 剛介 (奈良県総合医療センター)

「神経理学療法における尺度開発研究と臨床応用」

講師: 宮田 一弘 (茨城県立医療大学)

講師: 五十嵐 達也 (文京学院大学)

○ 共催講演Ⅱ 13:50～14:40 (第1会場 オクタホール) [共催]日本循環器理学療法学会

座長: 宮田 一弘 (茨城県立医療大学)

「神経・循環器理学療法における多施設共同観察研究と臨床応用」

講師: 山本 周平 (信州大学医学部附属病院)

講師: 久保 宏紀 (甲南女子大学)

○ 教育講演Ⅳ 14:50～15:20（第1会場 オクタホール）

座長：野添 匡史（兵庫医科大学）

「神経理学療法における無作為化比較試験と臨床応用」

講師：二階堂 泰隆（大阪医科薬科大学病院）

○ 総合討論 15:30～16:00（第1会場 オクタホール）

司会：宮田 一弘（茨城県立医療大学） 野添 匡史（兵庫医科大学）

「神経理学療法における臨床研究の限界を超えるには

— エビデンス創出と臨床現場の溝をどう埋めるか —」

シンポジスト：池田 登顕（山形大学）

井手 一茂（千葉大学）

海津 陽一（日高リハビリテーション病院）

久保 宏紀（甲南女子大学）

二階堂 泰隆（大阪医科薬科大学病院）

○ ハンズオンセミナー（第2会場 M204）

「私もできる！Rを用いたDPCデータ解析の入門&実践」

【入門編】10:10～12:00

講師：光安 達仁（福岡リハビリテーション病院）

アシスタント1：池田 登顕（山形大学）

アシスタント2：谷 拓朗（昭和医科大学）

【実践編】12:50～14:40

講師：谷 拓朗（昭和医科大学）

アシスタント1：池田 登顕（山形大学）

アシスタント2：光安 達仁（福岡リハビリテーション病院）

講師



池田 登顕

山形大学医学部医療政策学講座・東北大学歯学部国際歯科保健学分野

座長：井手 一茂（千葉大学）

要旨

ランダム化比較試験(以下、RCT という)の知見でなくてもガイドラインに取り上げられる事例が増えているのをご存じだろうか。近年、RCT が存在しない領域や、RCT の結果だけでは日常診療下の実践的な疑問に十分に答えられない場面において、ガイドラインは観察研究由来のエビデンスも積極的に活用する方向へと転換しつつある。本講演では、この変化を支える「因果推論」の基本的枠組みを概説するとともに、近年注目を集める Target Trial Emulation が神経理学療法学の領域でどのように応用されているのか、その実例を交えて解説する予定である。

略歴

学歴

2007年 神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部リハビリテーション学科卒業。

2017年 首都大学東京大学院人間健康科学研究科博士前期課程修了。

2020年 東北大学大学院歯学研究科博士後期課程修了。

職歴

2007年 佐々総合病院医療技術部リハビリテーション科

2009年 菊地脳神経外科・整形外科

2014年 荒川区障害者福祉課

2017年 仙台青葉学院短期大学リハビリテーション科

2019年 山形大学医学部医療政策学講座（現在に至る）

業績

1. Ikeda T, et al. Journal of Clinical Epidemiology. 2024;111550. doi: 10.1016/j.jclinepi.2024.111550
2. Ikeda T, et al. American Journal of Epidemiology. 2023;192:195–204. doi: 10.1093/aje/kwac168
3. Ikeda T, et al. Social Science & Medicine. 2020;264:113385. doi: 10.1016/j.socscimed.2020.113385
4. Ikeda T, et al. The Journal of Pain. 2022;23:390–7. doi: 10.1016/j.jpain.2021.08.008
5. Ikeda T, et al. Journal of General Internal Medicine. 2022;37:2727–35. doi: 10.1007/s11606-022-07394-8



講師

井手 一茂

千葉大学

座長：中谷 知生（宝塚リハビリテーション病院）

要旨

本講演では、健康長寿社会をめざした予防政策の科学的な基盤づくりを目的とし、「JAGES: Japan Gerontological Evaluation Study (日本老年学的評価研究)」について概説する。JAGES は、JAGES の目的に沿う公益性の高い研究・事業のためであれば、だれもが利用可能な大規模データベースである。神経・理学療法領域におけるエビデンス創出と臨床応用のための活用可能性について議論したい。JAGES の活用により、あなたの臨床、そして、神経・予防理学療法学を変える、サテライトカンファレンス in KOBE にできるよう、本セッションで微力ながら貢献していきたい。

略歴

<学歴>

2008年 9 月 広島大学医学部保健学科 理学療法学専攻 卒業

2016年 3 月 人間総合科学大学大学院人間総合科学研究科心身健康科学専攻修了(修士:心身健康科学)

2020年 9 月 千葉大学大学院医学薬学府博士課程先進予防医学共同専攻早期修了(博士:医学)

<職歴>

2008 年 10 月～2012 年 3 月 医療法人社団昇英会はちすばクリニック リハ助手 理学療法士

2012年4月～2020年 10 月 医療法人社団誠和会長谷川病院 理学療法士 ソーシャルワーカー

2020年 11 月～2022年 5 月 千葉大学予防医学センター社会予防医学研究部門 特任研究員

2022年 6 月～2023 年 3 月 千葉大学予防医学センター社会予防医学研究部門 特任助教

2023年 4 月～現在 千葉大学予防医学センター健康まちづくり共同研究部門 特任助教

業績

1. Ide K, et al. Heterogeneity in the associations of community gathering place participation with healthy ageing. Arch Gerontol Geriatr. 2025 Oct 25; 141:106060.
2. Ide K, et al. Points-Based Health Incentive Program and Subsequent Health and Well-Being in Japan: An Outcome-Wide Approach. J Am Geriatr Soc. 2025 Oct;73(10):3166-3176.
3. 井手一茂,他. 産官学民連携で取り組む四街道市における健康まちづくり:コレクティブ・インパクトのコンセプトに沿って整理した初年度の成果と課題. 日本公衆衛生雑誌 2025. 72(10):808-818.
4. Ide K, et al. Participation in community gathering place and social capital: A longitudinal study of older adults. SSM Popul Health. 2025 Jun 16;31:101828.
5. Ide K, et al. Using women-only fitness club and functional disability: a cross-sectional study using propensity score matching. Arch Public Health. 2025 Apr 25;83(1):114.

講師



野口 泰司

浜松医科大学

座長：中谷 知生（宝塚リハビリテーション病院）

要旨

本講演では、在宅生活を送る要介護高齢者とその家族介護者への大規模調査プロジェクトである「在宅ケアとくらしの調査」(JAGES-Home Care)について紹介し、予防理学療法や神経理学療法領域におけるエビデンス構築のためのデータ活用の可能性について検討する。また、本データを用いた脳卒中既往者に関する研究結果から、地域における脳卒中既往者の生活状況の実態と、ウェルビーイング向上に資する介入戦略について考察する。

略歴

名古屋大学医学部保健学科 理学療法学専攻 卒業

名古屋大学大学院医学系研究科 リハビリテーション療法学専攻 博士前期課程修了 修士(リハビリテーション療法学)

名古屋市立大学大学院医学研究科 公衆衛生学分野 博士課程修了 博士(医学)

国立長寿医療研究センター 研究所 老年社会科学研究部 流動研究員

日本学術振興会特別研究員(PD)

University College London, Institute of Epidemiology and Health Care, Department of Behavioural Science and Health, Visiting Scholar

国立長寿医療研究センター 研究所 老年社会科学研究部 主任研究員

浜松医科大学 医学部 健康社会医学講座 助教(現職)

業績

1. Noguchi T, et al. Role of learning experiences of care knowledge and skills on caregiver burden and self-esteem among informal caregivers: an observational cross-sectional study. *Aging & Mental Health*, 2025.
2. Noguchi T, et al. Association of Age-Friendly Communities With Health and Well-Being Among Older Adults: An Ecological and Multilevel Analysis From the Japan Gerontological Evaluation Study. *Journal of Applied Gerontology*, 2025.
3. Noguchi T, et al. Arts and cultural engagement and subsequent social deficits among older adults: A three-year longitudinal study using the Japan Gerontological Evaluation Study. *Social Science & Medicine*, 2024.
4. Noguchi T, Establishment of the Japanese version of the dementia stigma assessment scale. *Geriatrics & Gerontology International*, 2022.



講師

海津 陽一

日高リハビリテーション病院

座長：森岡 周（畿央大学）

要旨

本教育講演では、臨床現場で注目される「臨床予測モデル」について、その基本から神経理学療法領域における具体的な臨床予測モデルを把握し、臨床活用方法を理解するところまで解説します。海津が担当する前半部分では、臨床予測モデルの定義や研究の種類、構成要素、統計解析に用いられる主要な用語など、臨床予測モデル関連の研究を理解するために必要な基礎知識を解説します。これらの基礎知識を理解していただくことで、後半に解説される神経理学療法領域における具体的な臨床予測モデル研究についての理解を促します。

略歴

学歴

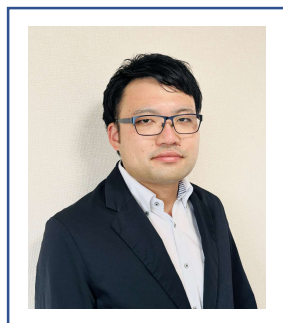
- 2010 年 群馬大学医学部保健学科卒業
- 2015 年 群馬大学大学院保健学研究科博士前期課程修了
- 2022 年 群馬大学大学院保健学研究科博士後期課程修了

職歴

- 2010 年 医療法人社団日高会日高リハビリテーション病院理学療法士
- 2012 年 医療法人社団日高会 日高病院 理学療法士
- 2016 年 医療法人社団日高会平成日高クリニック 理学療法士
- 2017 年 医療法人社団日高会日高病院 理学療法士
- 2024 年 医療法人社団日高会日高リハビリテーション病院（現在に至る）

業績

1. Kaizu Y, Miyata K. Post-hip fracture knee pain in older adults: a narrative review. Aging Adv. 2025;2(2):62-66.
2. Iwamura T, et al. Development of a clinical prediction rule to determine walking independence in older adults with hip fractures. Cureus. 2024;16(10):e72329
3. Kaizu Y, et al. Development and validation of a clinical prediction rule for walking independence in hospitalized older adults with a vertebral compression fracture. Physiother Res Int. 2024;29(4):e2117.
4. Kaizu Y, Tamura S, Saito H, Hayashi S, Iwamoto H, Miyata K. Clinical prediction models for nonmortality outcomes in older adults with hip fractures: a systematic review. J Gerontol A Biol Sci Med Sci. 2023;78(12):2363-2370.



講師

田村 俊太郎

太田医療技術専門学校

座長：森岡 周（畿央大学）

要旨

本教育講演の後半では、神経理学療法領域における実際の臨床予測モデルを提示し、臨床家が対象者に対してどのように予測モデルを活用していくべきかを解説します。本講演の前半で解説をする基礎知識をもとに、実際の臨床予測モデルの有用性を理解した上で、実臨床にあったモデルを判断するための方法や、予測モデル研究の対象者と目の前の対象者のギャップへの考え方等について講義を行います。本講演を通して、日々の臨床で対象者の予後をより正確に予測し、意思決定ツールとしてモデルを活用することを目指します。

略歴

2016 年 群馬大学医学部保健学科理学療法学専攻 卒業

公立藤岡総合病院 リハビリテーション室

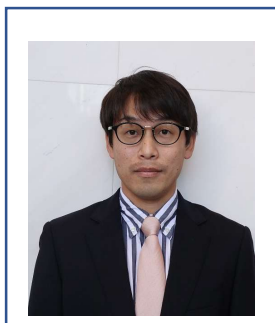
2018 年 群馬大学大学院保健学研究科 博士前期課程 修了(保健学)

2021 年 群馬大学大学院保健学研究科 博士後期課程 修了(保健学)

2024 年 太田医療技術専門学校 専任教員（現在に至る）

業績

1. Tamura S, Miyata K, Hasegawa S, et al. Pooled minimal clinically important differences of the Mini-Balance Evaluation Systems Test in patients with early subacute stroke: A multicenter prospective observational study. Phys Ther. 2024 Apr 2;104(4).
2. Tamura S, Kobayashi S, Takeda R, et al. Clinical prediction rules for multi surfaces walking independence using the Berg Balance Scale or Mini-Balance Evaluation Systems Test in persons with stroke. Top Stroke Rehabil. 2024 Mar;31(2):135-44.
3. Tamura S, Miyata K, Kobayashi S et al. T The minimal clinically important difference in Berg Balance Scale scores among patients with early subacute stroke: a multicenter, retrospective, observational study. Top Stroke Rehabil. 2022 Sept;29(6):423-9.



講師

宮田 一弘

茨城県立医療大学

司会：佐藤 剛介（奈良県総合医療センター）

要旨

神経疾患において理学療法を実践する上で、対象者の状態や能力の把握、予後予測、介入効果判定は重要であり、それらには評価尺度が用いられる。この評価尺度に関連する研究の目的は、科学的に適切な手法で現象の数量化を目指すことである。具体的には、尺度の妥当性、信頼性、反応性、解釈可能性などの尺度特性を検証する。

本講演では、尺度研究の概要を説明した上で、我々の行ってきた妥当性や信頼性を検討した事例を紹介することで、神経理学療法領域における尺度研究の発展に寄与できるような話題を提供したい。

略歴

2009 年 茨城県立医療大学保健医療学部 理学療法学科 卒業

医療法人社団日高会 日高リハビリテーション病院・日高病院

2014 年 群馬大学大学院保健学研究科 博士前期課程 修了(保健学)

2017 年 茨城県立医療大学保健医療学部 理学療法学科 助教(現在に至る)

2019 年 群馬大学大学院保健学研究科 博士後期課程 修了(保健学)

<学会活動>

日本神経理学療法学会評議員・研究推進委員・学術誌編集委員

BMC Geriatrics, Editorial Board Member

業績

1. Miyata K, Kondo Y, Bando K, et al. Structural Validity of the Mini-Balance Evaluation Systems Test in Individuals With Spinocerebellar Ataxia: A Rasch Analysis Study. Archives of Physical Medicine and Rehabilitation 2024; 105(4): 742-749.
2. Miyata K, Hasegawa S, Iwamoto H, et al. Rasch Validation and Comparison of the Mini-BESTest and S-BESTest in Individuals With Stroke. Physical Therapy 2022; 102(4): pzab295.
(他 40 編)



講師

五十嵐 達也

文京学院大学

座長：佐藤 剛介（奈良県総合医療センター）

要旨

標準化された評価手法の活用は、質の高い患者中心型理学療法を推進するうえで不可欠であり、異なる介入方法の効果比較や施設間でのデータ統合を可能にする。評価尺度は、目標設定や効果判定、患者との情報共有に重要な役割を担う。優れた評価尺度にはいくつかの特性が求められるが、とりわけカットオフ値や意義のある最小変化量(MIC)は、予後予測や理学療法の効果判定を支える有用な指標となり得る。本講演では、神経理学療法領域における目標設定や介入効果の判定を促進するため、我々が解明してきたカットオフ値や MIC の研究成果を紹介し、臨床応用と発展に寄与することを目的とする。

略歴

2010 年 沼田脳神経外科循環器科病院リハビリテーション部門理学療法課

2015 年 沼田脳神経外科循環器科病院リハビリテーション部門理学療法課 主任

2010 年 群馬大学大学院保健学研究科 博士前期課程 修了(保健学)

2023 年 沼田脳神経外科循環器科病院リハビリテーション課 主任

群馬大学大学院保健学研究科 博士後期課程 修了(保健学)

2024 年 文京学院大学保健医療技術学部理学療法学科 助教(現在に至る)

2025 年 目白大学耳科学研究所クリニック 客員研究員(現在に至る)

<学会活動>

一般社団法人 日本神経理学療法学会 戦略的課題解決委員会(姿勢バランス障害班), 一般社団法人 日本神経理学療法学会 埼玉地方会(学術・企画局), 一般社団法人 日本前庭理学療法学会 理事

業績

1. Tatsuya Igarashi, Yuta Tani, Hironobu Kakima, et al. Identifying fall risk within 6 months post-discharge through balance tasks analysis in inpatients with subacute stroke: Prospective cohort study. *NeuroRehabilitation*, 2025 (Online ahead of print).
2. Tatsuya Igarashi, Yuta Tani, Ren Takeda, et al. Accelerometer-based gait characteristics and their discrimination of gait independence in inpatients with subacute stroke. *Gait & Posture* 110, 138-143, 2024.
3. Tatsuya Igarashi, Yuta Tani, Ren Takeda, et al. Minimal detectable change in inertial measurement unit-based trunk acceleration indices during gait in inpatients with subacute stroke. *Scientific Reports* 13, 19262, 2023.



講師

山本 周平

信州大学医学部附属病院

座長：宮田 一弘（茨城県立医療大学）

要旨

エビデンス創出と振り返りの双方に、臨床データベースの整備は不可欠である。日本循環器理学療法学会は J-Proof HF study にて全国 96 施設 9,403 例の高齢心不全を登録し、入院中の ADL 低下の発症率と予後の関係を報告した。また、長野県内では整形外科や脳卒中などの多領域に拡張した前向きデータベースを独自に構築し運用中である。データベースは重要である一方で、協力施設のメリットや入力負担など、働き方改革下で実装は容易ではない。本講演ではこのような障壁に対する解決案となる長野県モデルのご紹介と施設(自施設含む)への具体的還元を提示する。

略歴

職歴

2007 年 4 月 - 2013 年 3 月 北里大学病院, リハビリテーションセンター部
2013 年 4 月 - 2015 年 3 月 聖マリアンナ医科大学病院, リハビリテーション部
2015 年 4 月 - 2016 年 3 月 信州大学医学部附属病院, リハビリテーション部

学歴

2013 年 北里大学大学院, 医療系研究科感覚・統御医科学群, リハビリテーション科学博士課程
2013 年 - 2015 年 北里大学大学院, 医療系研究科, 研究員
2015 年 - 2019 年 国立成育医療研究センター, 政策科学研究部, 共同研究員
2018 年 4 月 - 信州大学, 医学部保健学科理学療法学, 委嘱講師

学術活動

長野県理学療法士会(研究推進部)、日本循環器理学療法学会(理事)、心不全療養指導士実務部会、など

業績

1. Yamamoto S, Okamura M, et al. Impact of Long-Term Exercise-Based Cardiac Rehabilitation in Patients With Chronic Heart Failure - A Systematic Review and Meta-Analysis. Circ J. 2024;88(9):1360-1371.
2. Yamamoto S, Yamasaki S, et al. Prevalence and prognostic impact of cognitive frailty in elderly patients with heart failure: sub-analysis of FRAGILE-HF. ESC Heart Fail. 2022;9(3):1574-1583.
3. Yamamoto S, Sakai Y, et al. Clinical Outcomes and Prevalence of Sarcopenia in Patients with Moderate to Severe COVID-19. J Clin Med. 2022;11(21):6578

など。その他、英論約 80 編、和文約 30 編、著書 7 編(共著含む)。

Researchmap: https://researchmap.jp/s_yama



講師

久保 宏紀

甲南女子大学

座長：宮田 一弘（茨城県立医療大学）

要旨

臨床現場は、臨床に根ざしたエビデンス創出の最前線であり、そこで得られた知見は多様な現場に汎化され実装されることが求められる。単施設研究は、特定の診療体制や環境下で詳細な観察や介入を行える点に強みがある一方、症例背景が限定されるため、知見の一般化には一定の制約が生じる。この課題に対し多施設共同研究は、多様な症例を広く収集することで外的妥当性の高いエビデンスを創出でき、単施設研究を補完する役割を担う。本講演では、エビデンス創出と臨床応用の観点から両研究の特徴と意義を整理し、学会主導で進行中の多施設共同研究を紹介しながら、その展望について述べる。

略歴

2010 年 伊丹恒生脳神経外科病院 リハビリテーション部
2015 年 伊丹恒生脳神経外科病院 リハビリテーション部 副主任
2016 年 神戸学院大学 総合リハビリテーション学研究科 博士前期課程修了
2018 年 伊丹恒生脳神経外科病院 リハビリテーション部 主任
2020 年 神戸学院大学 総合リハビリテーション学研究科 博士後期課程修了
2022 年 関西医科大学 客員研究員
2023 年 甲南女子大学 看護リハビリテーション学部 理学療法学科 助教

<学会活動>

一般社団法人日本神経理学療法学会 研究推進委員会、戦略的課題解決委員会(歩行障害班)、兵庫地方会
一般社団法人兵庫県理学療法士会 学会運営部部長、「理学療法兵庫」査読委員

業績

1. Kubo H, Miyata K, Tamura S, et al. External Validation and Update of Minimal Important Change in the 6-Minute Walk Test in Hospitalized Patients With Subacute Stroke. Arch Phys Med Rehabil. 2025;106(7):1039-1045.
2. Kubo H, Kanai M, Nozoe M, et al. Association of Malnutrition With Physical Activity Intensity in Patients With Subacute Stroke. Arch Phys Med Rehabil. 2023;104(10):1652-1660.
3. Kubo H, Kanai M, Nozoe M, et al. Daily steps are associated with walking ability in hospitalized patients with sub-acute stroke. Sci Rep. 2022;12(1):12217.

その他、共著論文約 60 編(国際論文, 和論文を含む)

Research map: <https://researchmap.jp/hiro.k16862>



講師

二階堂 泰隆

大阪医科薬科大学病院

座長：野添 匡史（兵庫医科大学）

要旨

本講演では、主に特発性正常圧水頭症（iNPH）患者のナラティブから生じた臨床疑問が、歩行・バランス障害の特徴や転倒リスク因子の同定に関する研究、診断精度の向上に関する研究、そしてシャント術後の動的バランス運動介入による無作為化比較試験（RCT）へと発展させていった過程を紹介する。iNPH の理学療法研究は日本ではマイナーだが、その本質的な思考過程は他の神経疾患にも共通しうると信じている。ナラティブ、ラショナル（理論的妥当性）、エビデンスこれらの相乗効果により、神経理学療法におけるエビデンス創出と臨床応用をより高次元へ引き上げる可能性について議論できればと思う。

略歴

1999 年 日産学園京都自動車工業専門学校 卒業
1999 年～2003 年 大阪日産モーター株式会社
2007 年 行岡リハビリテーション専門学校 卒業
2007 年～2021 年 大阪医科薬科大学病院 リハビリテーション科
2013 年～2019 年 学校法人大阪医専 非常勤講師 兼務
2014 年 大阪府立大学大学院総合リハビリテーション学研究科博士前期課程 修了
2018 年 神戸大学大学院保健学研究科保健学専攻博士課程後期課程 修了
2021 年～現在 大阪医科薬科大学病院 リハビリテーション科 主任・リスクマネージャー
2025 年～ 現在 京都大学 脳機能総合研究センター 研究協力員

業績

1. Nikaido Y, et al. Role of the Functional Gait Assessment in validating item difficulty hierarchy and fall risk for idiopathic normal pressure hydrocephalus. *Mov Disord Clin Pract* 2025;12(9):1264-1274.
2. Nikaido Y, et al. Rehabilitation effects in idiopathic normal pressure hydrocephalus: a randomized controlled trial. *J Neurol* 2023, 270:357-368.
3. Nikaido Y, et al. Dynamic gait stability in patients with idiopathic normal pressure hydrocephalus with high and low fall-risk. *Clinical Biomech*, 2022, 99:105757.
4. Nikaido Y, et al. Perceived and actual changes in gait balance after CSF shunting in idiopathic normal pressure hydrocephalus. *Acta Neurol Scand*, 2021, 144(1): p21-28.
5. Nikaido Y, et al. Dynamic balance measurements can differentiate patients who fall from patients do not fall in patients with idiopathic normal pressure hydrocephalus. *Arch Phys Med Rehabil*, 2019, 100(8): p1458-1466.
(Researchmap: <https://researchmap.jp/Pekio-1100>)

ハンズオンセミナー1 私もできる！R を用いた DPC データ解析の入門&実践(入門編)



講師

光安 達仁

福岡リハビリテーション病院

アシスタント：池田登顕(山形大学) 谷拓朗(昭和医科大学)

要旨

普段使う臨床研究のデータ数と違い、DPC は膨大なデータ量を扱う必要がある。約 100 万行しか扱えない Excel では不十分で、R, Python, SQL などのプログラミング言語を主体としたデータ解析の手法を学ぶ必要となる。このハンズオンセミナー1では、R の基本的な操作を紹介し、午後のハンズオンセミナー2 で実際に解析に必要なプログラミング知識を学ぶことを目的としている。R は統計以外にもデータ解析に役立つ機能が多くあり、DPC 解析に限らず臨床研究で R に挑戦してみたい方にも応用できる考え方も紹介していく。

略歴

2002 年 京都大学附属医療技術短期大学部 理学療法学科 卒業

2002 年 福岡リハビリテーション病院 入職

2019 年 Professional Certificate in Data Science (HarvardX) 修了

2020 年 東京大学グローバル消費インテリジェンス寄付講座(GCI2019 winter)修了

2020 年 認定理学療法士(脳卒中)

<学会活動>

一般社団法人 日本リハビリテーション医療デジタルトランスフォーメーション学会 研究委員



講師

谷 拓朗

昭和医科大学

アシスタント：池田登顕(山形大学) 光安達仁(福岡リハビリテーション病院)

要旨

近年、国内ではDPCデータを活用した臨床研究が急速に広がっています。神経理学療法学でも臨床研究が進んでいますが、医学的情報の把握にはカルテ読解が必要で、研究の負担となりがちです。

DPCデータを用いることで、薬剤・処置などの医学情報を理学療法データと統合でき、臨床疑問の検証が格段に進めやすくなります。一方で、DPCは「難しそう」「扱いづらい」と感じる方も多いのが現状です。本演習では、研究にすぐ活かせるDPCデータの基本的な扱い方を解説し、日頃の臨床研究に役立つ実践的な視点を提供します。

略歴

【学歴】

- 2007年 東京農業大学 農学部 畜産学科 卒業
- 2010年 臨床福祉専門学校 理学療法学科 卒業
- 2019年 東京医科歯科大学 医歯学総合研究科 修士課程 修了
- 2023年 東京医科歯科大学 医歯学総合研究科 博士課程 修了

【職歴】

- 2010年 医療法人社団 緑野会 みどり野リハビリテーション病院
- 2014年 社会福祉法人 恩賜財団 済生会 神奈川県支部 神奈川県病院
- 2020年 国立病院機構本部 総合研究センター 診療情報分析部
- 2023年 昭和医科大学 薬学部 社会健康薬学講座 薬剤疫学部門(現在に至る)

業績

1. **Tani T**, et al.Safety and Effectiveness of Early Rehabilitation in Patients With Stroke and Concomitant Kidney Disease: A Cohort Study With Claims Data.Arch Rehabil Res Clin Transl. 2025;7(2):100434.
2. **Tani T**, et al.Age-Related Differences in the Effectiveness of Rehabilitation to Improve Activities of Daily Living in Patients With Stroke.Ann Geriatr Med Res. 2024;28(3):257-265.
3. **Tani T**, et al.Increasing Daily Duration of Rehabilitation for Inpatients With Sporadic Inclusion Body Myositis May Contribute to ADL Improvement.J Rehabil Med. 2023;55:jrm00386.
4. **Tani T**, et al.Rehabilitation of Patients With Acute Ischemic Stroke Who Required Assistance Before Hospitalization Contributes to ADL Improvement.Arch Rehabil Res Clin Transl. 2022;4(4):100224.
5. **Tani T**, et al.Association Between Volume of Patients Undergoing Stroke Rehabilitation at Acute Care Hospitals and Improvement in Activities of Daily Living.J Stroke Cerebrovasc Dis. 2023;32(2):106872.

準備委員会

集 会 長 野添 匡史（兵庫医科大学 リハビリテーション学部）

準備委員長 荻野 智之（兵庫医科大学 リハビリテーション学部）

準備委員

大谷 啓尊（神戸国際大学 リハビリテーション学部）

大坪 拓朗（西記念ポートアイランドリハビリテーション病院 リハビリテーション科）

奥田 和希（甲南医療センター リハビリテーション部）

久保 宏紀（甲南女子大学 看護リハビリテーション学部）

本間 敬喬（兵庫医科大学病院 リハビリテーション技術部）



第 36 回日本神経理学療法学 サテライトカンファレンス in KOBE 「神経理学療法のエビデンス創出と臨床応用 ―私の臨床を変えるために―」 抄録・プログラム集

集会長：野添 匡史（兵庫医科大学 リハビリテーション学部）

発行日：2026 年 1 月 24 日

発行元：第 36 回日本神経理学療法学 サテライトカンファレンス in KOBE

事務局：〒650-0045

兵庫県神戸市中央区港島 1 丁目 3-6 兵庫医科大学神戸キャンパス

(E-mail) 36th.jsnptsc@gmail.com